

【1】 財政の動向および前年度収支の状況

1 財政の動向

令和元年度の一般会計歳入歳出予算は、当初 27,950,000 千円でありましたが、3月に61,800千円、4月に19,700千円、6月に108,000千円、9月に16,623千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、28,156,123千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算現計29,880,300千円と比較しますと、5.8%の減少となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか4会計総額で当初11,984,100千円でありましたが、6月に1,608千円を増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、11,985,708千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算規模12,035,232千円と比較しますと、0.4%の減少となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか3会計総額で13,436,198千円となっています。これを前年度の9月末時点の収益的支出と資本的支出の合計12,429,233千円と比較しますと、8.1%の増加となっています。

2 平成30年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

平成30年度普通会計決算額は、歳入が31,199,096千円（前年度29,498,194千円）、歳出が30,314,423千円（前年度28,322,474千円）、前年度と比較すると、歳入は1,700,902千円（5.8%）、歳出は1,991,949千円（7.0%）の増加となりました。

歳入歳出差引額（形式収支）は、884,673千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、810,706千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が0.6%減少しましたが、法人市民税が12.9%増加しました。固定資産税は、土地で2.8%、家屋で3.9%減少しましたが、償却資産で0.3%増加しました。市税全体では0.7%の減となりました。

また、ふるさと納税制度による寄付金が6.3%の増、庁舎増築整備による二酸化炭素排出抑制対策事業補助金など諸収入が76.2%の増、繰越金が31.1%の増となったことから、自主財源全体では4.6%の増加となりました。

依存財源では、普通交付税の合併算定替えによる段階的縮減等の影響で

地方交付税は1.5%の減、臨時福祉給付金の支給終了などにより国庫支出金が9.7%の減となりましたが、合併特例事業債を活用し、大型建設事業を積極的に実施したことにより市債が48.8%増加し、依存財源全体では6.3%の増加となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、衛生費では、可燃ごみの県外処分に伴う環境センターの維持管理経費の減や、汚泥処理施設の整備完了などにより13.4%の減、民生費では、臨時福祉給付金の支給終了や地域福祉・介護施設への整備補助などが主な要因となり2.9%の減少となったほか、増加分としては、総務費では、庁舎増築整備などによる普通建設事業費やふるさと納税による積立金の増加などにより42.5%の増、農林水産費では、マキノピックランド周辺リニューアル事業や獣害防止柵整備事業などが主な要因となり31.2%の増、災害復旧費は7月豪雨および台風21号被害による道路や林道、農業用施設の復旧に要する経費により650%の増加となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費において、臨時福祉給付金の支給終了や福祉医療費の実績に伴い扶助費が2.9%の減、公債費では、これまでの市債発行額の影響を受け2.6%の増となりました。また、一般行政経費においては、汚泥処理負担金などの補助費は4.0%の増となりましたが、維持補修費は20.9%の減となりました。

積立金においては、ふるさと納税制度による寄付金の増加に伴い、水と緑のふるさとづくり基金や公共施設整備基金への積立てなどにより13.0%の増加となりました。

3 平成30年度収支の状況

実質収支	810,706千円	(前年度	914,461千円)
単年度収支	△103,755千円	(前年度	114,594千円)
実質単年度収支	△98,474千円	(前年度	△194,772千円)

(1) 実質収支

平成30年度における歳入歳出差引額(形式収支)は、884,673千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、810,706千円の黒字となりました。

(実質収支810,706千円＝歳入31,199,096千円－歳出30,314,423千円－翌年度繰越財源73,967千円)

(2) 単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、103,755千円の赤字となりました。

(単年度収支△103,755千円＝平成30年度実質収支810,706千円－平成29年度実質収支914,461千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、98,474千円の赤字となりました。

(実質単年度収支△98,474千円＝単年度収支△103,755千円＋財政調整基金積立金5,281千円＋繰上償還金0千円－財政調整基金取崩額0千円)